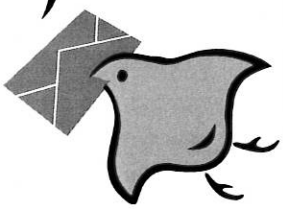
Vol.7 平成26年7月10日
発行所　史実を世界に発信する会
発行人　加瀬英明
編集人　茂木弘道

史実を世界に発信する会たより



ホームページ大改造基金募集中！

英文掲載文献は書籍 18 点、論文、主張など 85 点と充実したものになってきましたが、ホームページの構成が原始的で、アクセス、検索、活用などが極めて低機能な状態です。この際、大改造を計画しております。その基金１００万円目標で募集中です。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

慰安婦問題の正しい理解のための5つの事実

「史実を世界に発信する会」事務局長　茂木弘道

慰安婦問題の正しい理解のためには、次の５つの基本的な「事実」を確認しておくことが絶対的に必要です。この５つの基本的な事実は、幾多の「見解」の一つではなく、否定のしようのない客観的な社会的な事実です。しかも大事なポイントです。これらの重要な事実を無視した慰安婦問題の議論は、空論、もしくは事実の歪曲にならざるを得ません。なお、慰安婦問題を「人権問題」ととらえることの当否については補論で触れることにします。

1、「慰安所」は、当時日本全国に合法的に存在していた「遊郭」「妓楼」「売春宿」を戦地でも開業したものです。

従って当然のことであって、当時だれもこれを問題にした人はいませんでした。別に軍が特別なことを行ったわけではなく、国外での戦争が長引くために、国内にある慰安施設を国外の戦地にも設けたということです。

2、従って、慰安婦の大半は日本人であり、特に朝鮮をどうこうなどということは全くありませんでした。

ですから、現在慰安婦問題が、「朝鮮人慰安婦問題」として議論されていることは極めて異常なことです。

秦郁彦教授の推定によれば、慰安婦の出身地別の割合は概算で、日本人４、現地人３、朝鮮人２、台湾その他１の割合であった。（『慰安婦と戦場の性』（秦郁彦／新潮社）。現地人が３とやや多いのは、当時売春婦は世界中におり、現地希望者は大量に存在したので、日本などからの慰安婦が不足した場合には厳しい選考の結果現地売春婦も採用したからです。（軍は衛生問題に極めて神経を使っていた）。現在でもたとえば、最近中国で大量の売春婦摘発が行われたことがニュースになりました。

3、従って、米軍尋問調査（US Office of War Information No.49）では、「A comfort girl is nothing more than a prostitute or "professional camp follower"」と極めて正確に報告されています。

この尋問調書は、ビルマのミートキナで捕虜にした朝鮮人慰安婦20人に対する聞き取り調書であり、客観性は非常に高いものです。

日本軍に対して悪意こそあれ好意的なはずのない米軍兵士のまとめた調書です。しかし Sex Slave だなどという大ウソはさすがに書けなかったということです。

4、慰安婦の収入は、上等兵（10円／月）の約30倍～100倍という高収入

- 新聞広告（京城日報、毎日新報等）：300円／月
- US Office of War Information：750円／月
- 文玉珠（郵便貯金台帳残高）：1000円／月

5. 軍の関与は「義務」でした。

妓楼など売春施設については、地方自治体では衛生局が衛生管理を義務として行い、警察は悪徳斡旋業者を摘発し、売春婦が不当な扱いを受けないよう監視するなどしていました。戦地では、これに加え、身の安全を確保するなどの当然の義務を軍が果たしていました。軍の関与は良い悪いの次元ではなく、当然の義務でした。

補論：慰安婦問題が女性の人権問題なのか?

超高収入（兵士の50倍前後）の仕事に出かけていって商売していたのが慰安婦であったことは確実な事実です。それがやむを得ない理由によるものか、望んで行ったものかは人により事情は異なるでしょう。しかし、権力による強制によって慰安婦として働いたのでは全くありません。超高収入を目的に働きにいったのです。その仕事で苦しい目に会ったケースはあるでしょう。しかし戦地に働きに行って、苦しい目に会ったことを以って人権問題などと言いだしたら、どうなるんでしょう。慰安婦以外に戦地で仕事をした人はたくさんいました。なのに、慰安婦、しかも特定国の慰安婦に日本政府が謝罪するなどということは、とんでもない筋違いの話ではありませんか。

売春自体が、女性の人権問題だ、という方たちは、韓国の売春婦に大変失礼なことになります。それは昔の話ではありません。2011年5月17日韓国で売春婦が「売春は我々の権利」とデモを行っています。「われわれの権利を奪おうとするなら、我々は堂々と死んでいく」と石油をかぶり叫んでいいます。

売春の是非は個人により異なります。これを一方的に女性の人権問題とする独善は、慎むべきことではないでしょうか。ましてや、売春が合法であった時のことまで糾弾の対象にするなど以っての他と言うべきでしょう。

Newsletter70号より

「史実を世界に発信する会」の中心的な活動は、日本の名誉にかかわる史実に関する、書籍、文献、論文、主張などを「英訳」し、それを会の英語版ホームページ Justice- Web Library of Modern Japan History (http://www.sdh-fact.com) に「掲載」することです。

また、日本人向けとして、日本語原文と英訳文を掲載した日本語版ホームページも持っています。http://hassin.org ここでは会の活動、会計報告も載せています。

2008 年 5 月からは、英訳文献をサイトにアップする際に、それを広く内外に知らせるために、Email 版の SDHF Newsletter を発行することにしました。次ページにサンプルが載っていますが、これは日本人向けの Newsletter です。外国人向けは、下の方にある英文のみが、配信されます。

アップロードされた文献の概要、意義といったものと同時に、作者の紹介も必要に応じて載せています。また、ここから、英訳全文、サマリー、著者プロフィール、そして日本語原文を検索することができるようになっています。

現在、メールの宛先としては、外国人は Association for Asian Studies のメンバーを中心に、外国人特派員協会メンバー、海外有力紙など 4000 ほど、国内向けは、3000 ほどです。

会報は、年に 2 回ほどですので、会の活動状況を最も頻繁にお知らせしているのが、このニュースレターです。また、講演会の案内なども Newsletter special として行っております。なお Newsletter は、すべて日本語版ホームページの「ニュースレター」の欄にのっておりますので、最初の号から見ることができます。

「史実を世界に発信する会」のメンバーで、メール登録されていない方には、このニュースレターが届きませんので、もし登録されていませんでしたら至急メールアドレスをお知らせください。

70号を発行

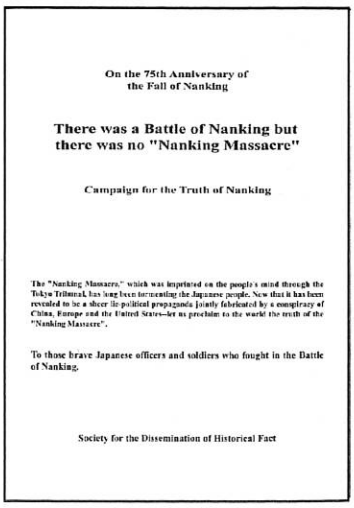
6 月 17 日には、70 号を発行しました。ほぼ、月に一回のペースということになりますが、これからはもう少し増やしていきたいと思います。全号のタイトルを 4 ページに掲載してあります。英文版の方も載せようと思いましたが、スペースがたりないので、それは日本語サイト http://hassin.org の「ニュースレター」でご覧ください。

70 回のうち書籍のアップを紹介したものが、12 回あります。そのうちの一つは、『パル判決書』の全文アップです。これはもともと英語で書かれたものを「国書刊行会」が刊行したものを許可を得て、スキャンしてアップしたものです。これにより世界中の人が、**いつでも、無料で 700 ページの『パル判決書』を読むことができるわけです。**勿論プリントアウトもできます。

また、パル判決書の重要個所 400 か所以上を直接引用しながら解説を加えたものが No. 16『パル判決書の真実』(渡部昇一)(PHP) です。これによって、『パル判決書』の核心をつかむことができます。

会がスタートした時からの重要テーマが「南京事件」でしたので、Newsletter のテーマでも最も多い 13 件となっていますが、これに次いで慰安婦問題が 11 件です。次いで、竹島を含む韓国の問題が 10 件、尖閣問題が 7 件、日中戦争等が同じく 7 件です。大東亜戦争については、日米戦問題を含めると 14 件となります。東京裁判関係は 6 件。ロシアの国会が日本降伏調印の 9 月 2 日を戦勝記念日に制定する決議を行ったことに抗議する論文も掲載していますが、これをロシア語にして転載したところもあります。

Newsletter の発信力を一層高めていきたいと考えております。



On the 75th Anniversary of
the Fall of Nanking

There was a Battle of Nanking but
there was no "Nanking Massacre"

Campaign for the Truth of Nanking

The "Nanking Massacre," which was imprinted on the people's mind through the Tokyo Tribunal, has long been tormenting the Japanese people. Now that it has been revealed to be a sheer lie political propaganda jointly fabricated by a conspiracy of China, Europe and the United States–let us proclaim to the world the truth of the "Nanking Massacre".

To those brave Japanese officers and soldiers who fought in the Battle of Nanking.

Society for the Dissemination of Historical Fact

南京戦はあったが「南京虐殺」はなかった

英訳版刊行！ 定価：1000円+消費税

英訳版が完成し、NewsletterNo.69 で内外に紹介すると同時に、駐日大使館、公使館 215 に早速送付。かなり反響あり。また、大学図書館、大型図書館には、日本語版とセットで送付。日本語版５００円。いずれも注文受付中。

SDHF Newsletter No. 67

ケネディ大使への手紙

靖国といとこの君の「特攻」をめぐって

小川榮太郎

ケネディ大使への手紙
靖国といとこの君の「特攻」をめぐって
小川榮太郎

ベストセラー本『約束の日　安倍晋三試論』（幻冬舎）、『『永遠の０』と日本人』（幻冬舎）などで知られる新進文芸評論家の小川榮太郎氏が、靖国問題をめぐってキャロライン・ケネディー大使にあてた「手紙」を雑誌『正論』誌上に発表した。既にこの論文は、英訳され、文字通りの手紙と共にケネディー大使に送付されている。

靖国問題を歴史的文化的な背景から説き、安倍首相の参拝が当然のことであることを丁寧に説明した極めて説得性の高い文章である。しかも、大東亜戦争が決して日本の戦争犯罪などではないという肝心な点に踏み込んだ本格論文である。

しかし、この論文の優れているところは、単純にこちら側の主張を述べているのではなく、何故とてつもない誤解が生じているのか、その理由はわれわれ日本サイドが海外の人々に対して自己説明、発信を怠ってきたことにあることを実例を引きながら述べているところにある。

小川氏は、ケネディー大使のいとこのマクスウェル・テイラー・ケネディが"Danger's Hour"という本を書いているが、そこで日本の特攻兵士を極めて公正に評価していることを紹介する。しかし、そのケネディーが明治憲法では「天皇は神と書かれている」だとか、とんでもない日本誤解を本の中で多々述べていることに対して、その誤解を正しつつ、相手を非難するのではなく、こんな誤解を生んだのは我々日本の責任を強調している。

この手紙が、是非ともケネディー大使の関心を引き、日米相互理解の新しい局面を開拓してくれるきっかけになってくれることを願うものである。

日本文：　http://hassin.org/01/wp-content/uploads/ALetter.pdf

英訳版は、下記の通り Newsletter で海外４０００ほどのアドレスに email 発信した。

平成２６年４月１５日　「史実を世界に発信する会」事務局長　茂木弘道

Open letter to Ambassador Kennedy by OGAWA Eitaro
Over the Issue of Yasukuni and "Suicide Attack" as Described by Maxwell Taylor Kennedy

Mr. OGAWA Eitaro, well-known writer for his best-seller book *Day of Promise—Preliminary Essay on Abe Shinzo* (Gento-sha Library), wrote an essay "A Letter to Madam Ambassador Kennedy: Over the Issue of Yasukuni and the "suicide attack" Described by Your Cousin – There Are Several Things I Would Like to Convey, As A Japanese, to Madam Ambassador, Who Recognizes the Importance of Honestly Discussing Diverse Points of View," for a leading political monthly magazine *Seiron's* April, 2014 issue.

He explains the reason why Prime Minister Abe paid a visit to Yasukuni from a historical and cultural background, referring to the Japan-America War of the past. In this context he touches on the book entitled *Danger's Hour*, written by Maxwell Taylor Kennedy, Ambassador Kennedy's cousin. He greatly appreciates Mr. Kennedy's fair evaluation of the Kamikaze suicide attack pilots in the book. Even though fair in this regard, Mr. OGAWA finds a lot of serious misunderstands regarding Japan and the Japanese in the book. Here is one example.

Mr. Kennedy writes "Their fundamental precepts stressed ultimate loyalty and ideal fealty throughout the lives of every citizen. Ogawa and his fellow college students had known no other type of regime." This is far from the truth. Mr. OGAWA notes that many of the Japanese youths were in fact highly literate, at a rate that was one of the highest in the world at that time. It was usual practice for sons and daughters of poverty-stricken peasants to read difficult novels and philosophical books in Pre-War Japan. In the 1930's, a Japanese scholar of French literature named Kuwabara Takeo went to see Alain. Kuwabara told Alain that 100,000 copies of the pocket-book edition of *The Red and the Black* by Stendhal were sold in Japan. Alain, in disbelief, said to him, "It's unbelievable. Here in France, Stendhal is read only by several thousand readers." But the former number was no exaggeration.

Mr. OGAWA does not fault Kennedy's lack of knowledge but blames the Japanese for not having done enough to explain Japan to Western people. Thus, he emphasizes that in order to have Western people understand Japan, we Japanese should exert more effort in this regard.

With Ambassador Kennedy's appreciation and understanding of the nature of this letter, I believe that the open letter to Ambassador Kennedy will lead to a new horizon of mutual understanding between Japanese and Americans.

Full text:　http://www.sdh-fact.com/CL02_1/111_S4.pdf
Author profile:　http://www.sdh-fact.com/CL02_1/111_S3.pdf

Sincerely,

MOTEKI Hiromichi, Secretary General
for KASE Hideaki, Chairman
Society for the Dissemination of Historical Fact
Phone: 03-3519-4366
Fax: 03-3519-4367
Email moteki@sdh-fact.com
URL http://www.sdh-fact.com
Note: Japanese names are rendered surname first in accordance with Japanese custom.

Newsletter 全70号リスト

※『　』は書籍

1. 『よくわかる慰安婦問題』（西岡力）（草思社）
2. 胡錦涛主席への「南京問題に関する公開質問状」（南京事件の真実を検証する会）
3. 「ラーベの日記」が明かしたヒットラーと「南京大虐殺」古荘光一
4. 『国民党極秘文書から読み解く「南京事件」』東中野修道
5. 「南京事件」サイトへの掲載文献案内
6. 竹島帰属問題に関するブッシュ大統領への申し入れ書
7. 日本政府は「尖閣」の領有権の根拠を主張せよ（高花豊）
8. 「チベット問題は侵略という『乱』（酒井信彦）
9. ルーズベルトの昭和天皇宛親電はどうなったか（杉原誠四郎）
10. 原典による南京事件の解明（冨澤繁信）
11. Der Mythos vom "Nanking-Massaker" 南京虐殺の徹底検証（要旨）ドイツ語版
12. 映画「ジョン・ラーベ」の正体（茂木弘道）
13. 胡錦濤主席は何故公開質問状に答えられないのか？（茂木弘道）
14. 「つくる会」韓国大統領に４項目質問書送付
15. 韓国の歴史に対する内政干渉は許されない
16. 『パル判決書の真実』（渡部昇一）英訳全文をアップ
17. 「日本南京学会」8年間の研究成果の総括（杉原誠四郎）
18. 『パル判決書』原文（700ページ）全文アップ
19. 『東京裁判　日本の弁明』（小堀桂一郎編著）全訳アップ
20. 『南京で本当は何が起こったのか』（阿羅健一）（徳間書店）（英訳版アップ）
21. 日中歴史共同研究報告書に抗議する（茂木弘道）
22. 『ＧＨＱ焚書図書開封』（西尾幹二著・徳間書店）第１部英訳発信
23. 「日中戦争」は中国が起こした（茂木弘道）
24. 日中戦争―日本は何故、何を目的に、どう戦おうとしていたのか
25. 『中国大虐殺史』（石平）（ビジネス社）
26. 韓国併合100年目の真実（黄文雄）
27. 「つくる会」国連児童権利委員会の不当な内政干渉に抗議
28. 韓国併合―収奪されたのは日本人だった（松木國俊）
29. ロシア：恥ずべき侵略戦争を祝う記念日に（偕行社）
30. 中国の尖閣領有権主張は恥ずべきウソである（高花豊）
31. 尖閣一動かぬ証拠５点（茂木弘道）
32. 『日中戦争：戦争を望んだ中国、望まなかった日本』（北村稔／林思雲）
33. 竹島は「天地がひっくりかえっても」日本領（茂木弘道）
34. 尖閣諸島はあらゆる点から見て日本領である（茂木弘道）
35. 慰安婦と医療の係わりについて（天児都）
36. 花柳病の積極的予防法（軍医少尉麻生徹男）
37. 戦争を起こしたのはアメリカである（茂木弘道）
38. アメリカを巻き込んだコミンテルンの東アジア赤化戦略（江崎道朗）
39. 慰安婦の素顔（茂木弘道）
40. アメリカ人の「南京虐殺目撃証人」は一人もいなかった（村松俊夫）

41. 「東海」が紀元前からあったというのは真っ赤なウソである（拓殖大学教授　下條正男）
42. 「尖閣は明代から中国領」の真っ赤な嘘（下條正男）
43. 共産主義の戦争挑発を隠蔽した東京裁判（小堀桂一郎）
44. "Sailor Diplomat: Nomura Kichisaburo and the Japanese-American War（英書紹介）
45. 『日韓併合は日本の誇り』（「日韓併合百年」首相謝罪談話に反対する会）
46. 谷山雄二朗氏による誤った慰安婦論への徹底反論（YouTube）
47. 「中国人はなぜ平気でウソをつくのか」北村稔／林思雲
48. China Invades Senkaku Islands by Fujii Genki（YouTube）
49. 中国の尖閣領有権に一点の論拠なし（中文版）（茂木弘道）
50. 「かくも卑しきコリアン根性―日本人には理解不能？！」黄文雄
51. 「ペリー襲来から真珠湾への道」元ニューヨークタイムズ東京支局長　ヘンリー・ストークス
52. 「日本はアジアの希望の光だ」　ヘンリー・ストークス
53. 「韓国一流紙までが反日原理主義」評論家・ジャーナリスト西村幸祐
54. 『ここまで違う　中国と日本』（加瀬英明・石平）
55. Guantanamo &Comfort Women　慰安婦問題の真実を再度訴える（谷山雄二朗）
56. 書評　『日米開戦以降の日本外交の研究』（杉原誠四郎著）（亜紀書房）
57. ＜慰安婦＞情報戦争の真実―反日ファッシストたちの情報ロンダリング（西村幸祐）
58. 慰安婦像設置を決めたグレンデール市への抗議の手紙（マックス・フォン・シューラー）
59. 韓国における「慰安婦」（加瀬英明）
60. 日系アメリカ人の対日観と歴史認識（対談）（小島茂／静岡県立大学教授）・Ronald Shinomoto
61. 「戦後日本を支えた大東亜戦争の遺産」（江崎道朗）
62. スルヤ・クマール・ボース氏の講演　（大東亜会議 70 周年記念大会）（大東亜会議 70 周年記念シリーズ－1）
63. 「人種世界平等の出発点となった大東亜会議」加瀬英明（大東亜会議 70 周年記念シリーズ－2）
64. " 日本はアジアの希望の光だった " ヘンリー・ストークス（大東亜会議 70 周年記念シリーズ－3）
65. マッカーサー電文「李承晩体制下では日本の領土とされてきている竹島を力ずくで占拠している」
66. 「この本はユダヤ魂、日本魂を教えてくれる」―イスラエル建国の英雄ヨセフ・トルンペルドールー（衆議院議員　西村眞悟）
67. ケネディ大使への手紙「靖国といとこの君の「特攻」をめぐって」（小川榮太郎）
68. THE NEW KOREA（朝鮮が劇的に豊かになった時代）By Alleyne Ireland, F.R.G.S.（櫻井よしこ）
69. 『南京戦はあったが「南京虐殺」はなかった』「南京の真実」国民運動編
70. 「慰安婦問題の正しい理解のために」（茂木弘道）

史実を世界に発信する会 役員・顧問

代表　加瀬英明

委員　茂木　弘道（事務局長）
委員　西大路　達樹
委員　藤田　裕行
委員　菊地　正
委員　原島　聰
委員　佐伯　一馬
委員　空花　正人
委員　東郷　勇策
委員　佐々木　俊夫

顧問　井尻千男
顧問　長谷百合子
顧問　大原康男
顧問　長谷川三千子
顧問　日下公人
顧問　藤井厳喜
顧問　ペマ・ギャルポ
顧問　黄文雄
顧問　宮崎正弘

顧問　小堀桂一郎
顧問　百地章
顧問　杉原誠四郎
顧問　渡部昇一
顧問　石平
顧問　高山正之
顧問　田久保忠衛
顧問　中條高徳

支援金募集中

日本の名誉を守るために、海外に向けて情報発信を実行しています。国を思う皆様のご支援を是非お願い致します。

個人会員（年会費１口）１万円
賛助会員（年会費１口）10 万円
法人会員（年会費１口）30 万円
支援協賛金（金額随意）

＋郵便振替　00170-1-389220
＋三井住友銀行日比谷支店　普通　8286008
口座名：史実を世界に発信する会

※会費・賛助金等をいただいた方のお名前は、イニシャルにて、収支報告書ページに掲載します。又、収支報告書は、半年ごとに作成して掲載します。

史実を世界に発信する会たより
Vol.7 平成26年7月10日

発行所
史実を世界に発信する会
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-13-14
新佐久間ビル 3F
電話 03-3519-4366
FAX 03-3519-4367

日本語版サイト　http://hassin.org/
英語版サイト　http://www.sdh-fact.com/
事務局メールアドレス　moteki@sdh-fact.com